

# 症例検討 1

## 上顎歯肉病変の一例

江原道子 (DDS) <sup>1</sup>、中川 篤 (CT) <sup>2</sup>、中尾寿奈 (DDS) <sup>1</sup>、  
落合隆永 (DDS) <sup>1</sup>、諏訪裕彦 (DDS) <sup>1</sup>、川原田孝司 (DDS) <sup>1</sup>、  
宮崎龍彦 (MD) <sup>2</sup>、永山元彦 (DDS) <sup>1</sup>

<sup>1</sup>朝日大学歯学部口腔病理学分野

<sup>2</sup>岐阜大学医学部附属病院病理部

# 上顎歯肉

年 齢：70歳代

性 別：男性

採取方法：擦過

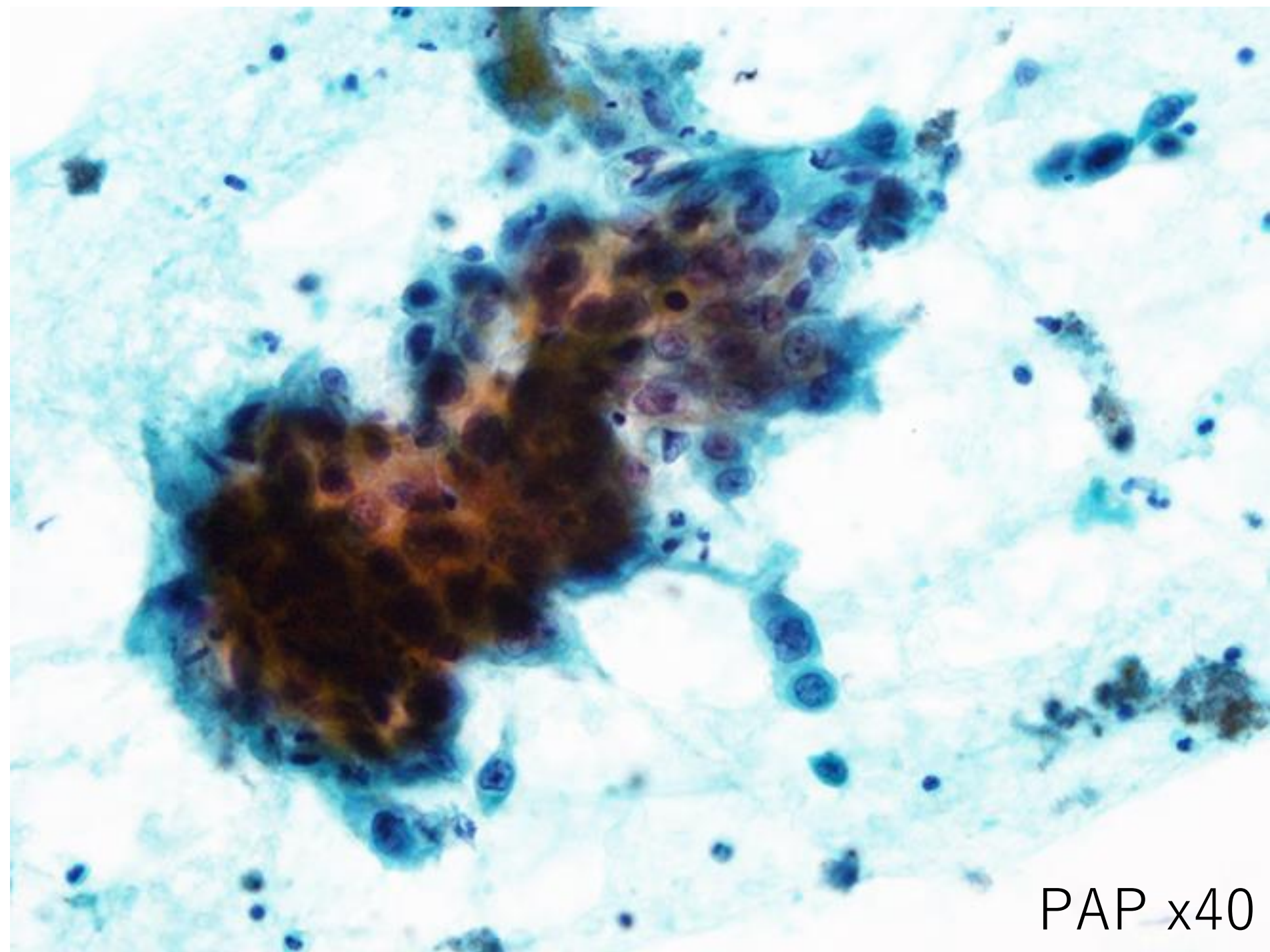
採取器具：歯間ブラシ

臨床経過：昨年夏頃に口内炎を自覚していたが放置していた。その後秋頃より増大し排膿、出血、開口障害を自覚し紹介受診。

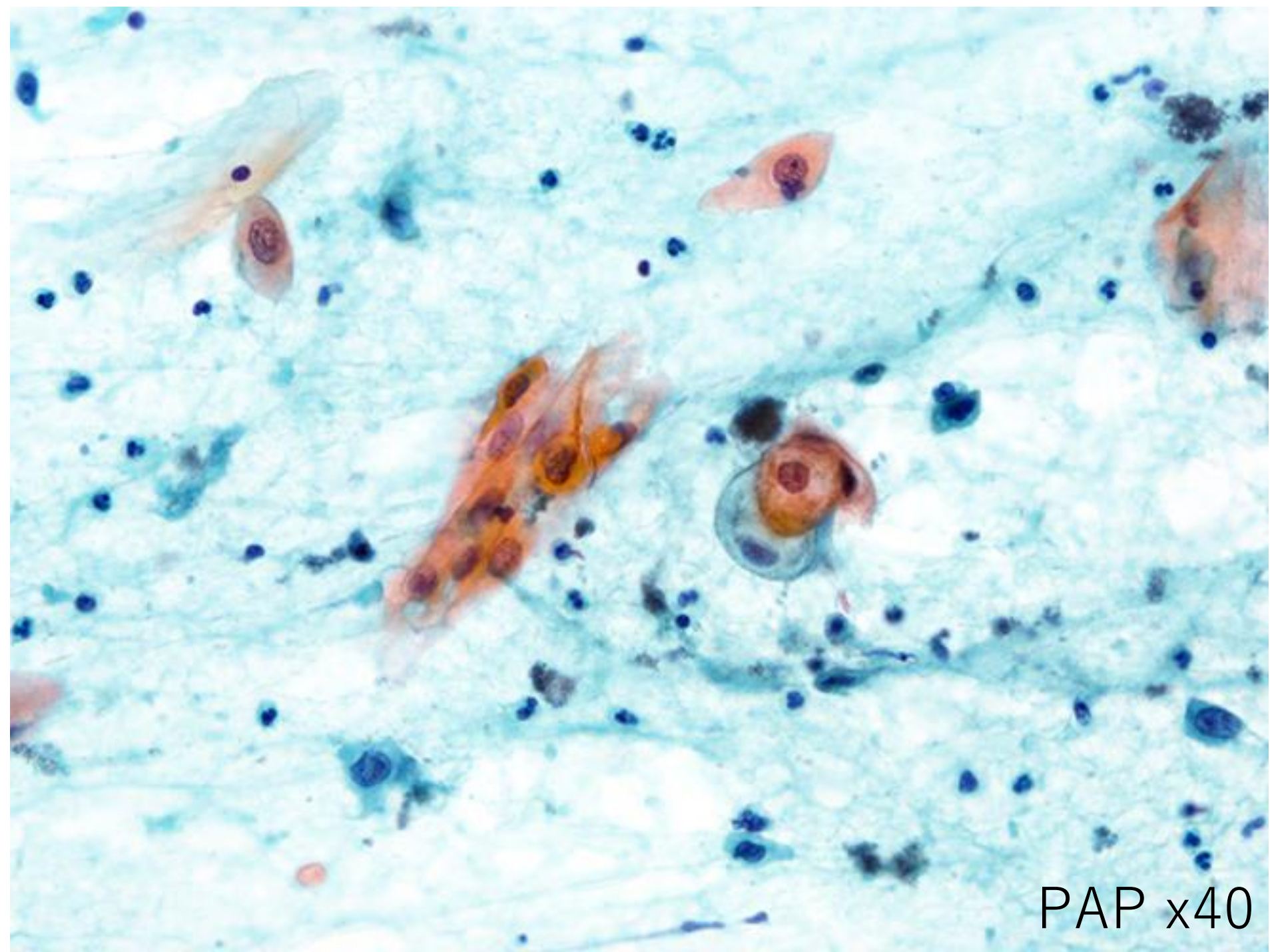
臨床診断：歯肉癌

# 口腔内写真





PAP x40



PAP x40

# 判定名/推定組織型

1. NILM / 辺縁性歯周炎
2. NILM / 過角化症
3. LSIL / 低異形度口腔上皮性異形成
4. HSIL / 高異形度口腔上皮性異形成
5. SCC / 扁平上皮癌

こちらを**クリック**して回答に進んでください。